Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバッグセミナー

Brown Bag Seminar No.205

2025 10.1 (水) 12:10 ~ 12:50

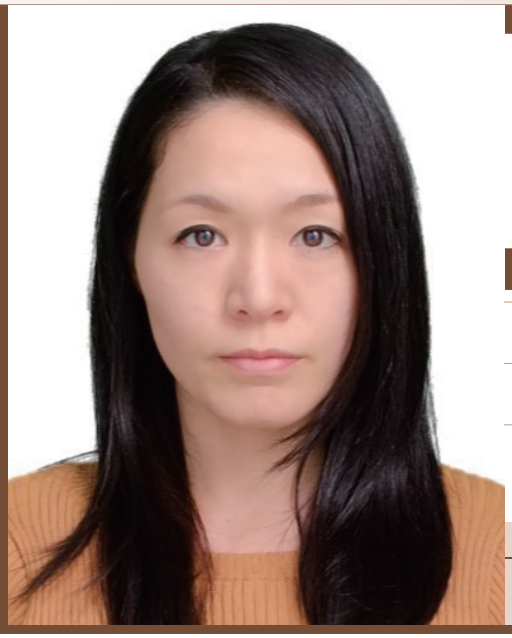
12:10-12:15 ◆発表者紹介
12:15-12:40 ◆プレゼン
12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom)
登録はこちら

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_z3AOT8QGThe3uUzmPZL1tg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

弥生時代の人々に出会う：
総合研究博物館の古人骨資料を通して知る歴史



Key Words
古人骨
弥生時代
顔面部形質

米元 史織 准教授
九州大学総合研究博物館

東京都墨田区出身。東海大学文学部歴史学科卒業。2015 年に九州大学大学院比較社会文化学府（現・地球社会統合科学府）博士後期課程単位修得退学後、九州大学総合研究博物館に支援教員として着任。2015 年 11 月に博士号を取得（九州大学、博士（理学））した後、2018 年 1 月に博物館の専任助教として着任しました（2024 年 10 月から准教授）。専門は自然人類学で、筋骨格ストレスマーカー（Musculoskeletal stress markers）という方法を用いて筋付着部の発達度から古代の人々の身体活動を再構築し、身体活動の差から格差がどのように展開したかを明らかにすることを目的として研究を行っています。2024 年には、第 14 回日本考古学協会優秀論文賞を受賞しました。その他、総合研究博物館所蔵の 3000 体の古人骨を用いて頭蓋骨の 3D データによる解析、弥生時代の形質の地域性の再検討を行い、弥生時代の成立と展開に関する研究を行っています。

私が所属する総合研究博物館には、遺跡から出土した約 3000 体の古人骨が所蔵されています。1953 年に発掘・収集が始まって以来、これらの古人骨は日本列島に住む人々の起源をめぐる数多くの研究に用いられてきました。研究の結果、北部九州地域で弥生時代が成立する過程で、人々の顔かたちが縄文時代とは大きく変化したことが明らかになりました。高顔（面長）と呼ばれる、大陸から来た人々に由来すると考えられる形質が西日本に広がっていったのです。これらの変化は、大規模な置換ではなく、小規模かつ漸次的な変容として理解されています。膨大な資料を詳細に調べることで研究は着実に進展してきました。本セミナーでは、このような自然人類学の最新成果を通して、日本列島に暮らした人々の変遷をご紹介したいと思います。

Contact Information Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies (Q-AOS) 744 Motooka, Nishi-Ku, Fukuoka-City, 819-0395, JAPAN Tel: +81-092-802-2605